

令和8年度 和歌山県食品衛生監視指導計画【概要】（案）

R7年度計画

計画監視数

5,844件 (施設数:16,635件)

1.重点対策

(1)HACCPの導入指導

- ・HACCP実施状況を確認
- ・HACCP認証制度の活用
- ・自主衛生管理の推進

(2)食中毒対策

- ・ノロウイルス対策
- ・食肉対策
- ・ジビエ対策
- ・健康食品対策 など

(3)食品表示の適正化

- ・表示監視指導
- ・表示推進者育成講習会

2.食品検査

901検体：33,997項目

残留農薬、食品添加物、成分規格、汚染実態調査

3.リスクミ

- ・食の安全県民会議
- ・意見交換会、親子教室

4.情報提供

県公報紙、HP、LINE

5.関係機関と連携

R7年度の動向

(R7年12月現在)

1.HACCP導入状況

91.4% (導入確認済の施設)

HACCP導入達成見込み



- ・導入されたHACCPを定着させることが必要
- ・自主衛生管理の更なる推進が必要

2.食中毒発生状況

3件発生

- ・ノロウイルス
- ・カンピロバクター
- ・原因不明《推定：クドア属（寄生虫）》

3.食品検査

714検体：30,160項目

違反食品：0件

4.その他

▶県産品推奨制度「和歌山一番星アワード」開始

▶R8年度「高校総体」・「全国育樹祭」開催に係る準備を開始

▶キッチンカー相互乗入
R7年6月から1つの許可で大阪府との相互乗入が可能に

R8年度監視指導計画

計画監視数

ランク	業種等	監視回数	施設数	計画監視数
A	前年度違反施設等	2回/年	35	70
B	大量調理施設等	1回/年	786	786
C	飲食店等	1回/2年	7,766	3,883
D	魚介類販売業等	1回/3年	3,185	1,062
E	露店、届出業種等	適宜	4,809	—
合計			16,581	5,801

1. 重点対策

(1) HACCPに沿った衛生管理の定着

(2) 食中毒対策（ノロウイルス、カンピロバクター、アニサキス等寄生虫）

(3) 食品表示の適正化（和歌山一番星アワード制度の活用）

(4) 高校総体・全国育樹祭対策

一斉監視（夏・冬）や講習会など効果的・効率的に監視指導

2. 食品検査

834検体：34,165項目 + 食中毒調査に係る検査

高校総体、全国育樹祭に関する検査（弁当の微生物検査）等

3. リスクミ・情報提供

食の安全県民会議、意見交換会、表示講習会等の開催。関係団体との連携による自主衛生管理の推進。県公報紙、HP、LINEなどの活用。

4. 関係機関との連携

- ・大規模食中毒時の連携
- ・キッチンカー営業者への監視指導